



資源と環境の教育を考える会『エコが見える学校』
 関東学院大学非常勤講師
 三信化工株式会社

海老原誠治

えびはら せいじ

佐賀大学物理学科卒業、佐賀県立有田窯業高等学校・
 常勤講師を経る。

◎テレビ東京『すけっち』（毎週金曜21:54～）にて、前回紹介『われたらばずる』が
 取り上げられます。ご興味のある方、ぜひご覧ください（放送予定：2016年9月）。

「いただきます」の裏側

相手の気持ちを思う

「昔の人は、たくさん鯨を捕まえて殺して食べていました。その時『ごめんね、ありがとう』って気持ちを込めて、お墓を作ったり供養したんだって」。

猪・鹿・鳥・魚・害虫（農作物の実や葉を食すカメムシ・イナゴ・ウンカ）・資源として切る木材・針・筆。人が生きるために犠牲となった動植物、人に使われた身の回りの道具までに対し、人は相手の気持ちを思い、敬い感謝・供養し、時には墓を作る文化が日本にはあります。

「みんな昔の人みたいに、資源や食べ物、自然や道具へ、普段から感謝してるかな？」
 「…」

「『感謝してないよ』って言う人、本当？

じゃあ、食事の前はなんて言うかな？ いただきますの意味を、もう一度思い出してみようね」

▼鯨の胎児の墓
 (山口県長門市)



▲鯨塚（千葉県安房郡鋸南町）



◀「大日本物産図絵（巻四）
 鯨漁之図」歌川広重、古式
 捕鯨の様子

私たちは昔のように、供養やお墓を作ったりはしません。しかし形は違っても同じ思いを「いただきます」で表します。

日本の、大切のかたち

「粗末にすると、バチが当たる」「一寸の虫にも五分の魂」という表現がありますが、日本はさまざまなものに魂を見いだす自然信仰・アニミズム文化（ミニ知識参照）の国といえます。さらに中国仏教から空海・最澄により伝わる「草木国土（山川草木）悉皆成仏」が輪を掛けます。草木石土、万物に魂的な情が宿る意味合いの思想です。このような流れで定着した価値観が、日本における「大切」の文化といえます。

沖で鯨の子がひとり

その鳴る鐘をききながら

死んだ父さま、母さまを

こひし(こいし)、こひしと泣いてます

金子みすゞ『鯨法会』抜粋

捕鯨における鯨の親子の情を詠った詩、彼女だけの繊細さでしょうか？ 彼女のふ



◀神原の草木塔
(山形県米沢市)



◀司蝗神、イナゴ（蝗）
供養（佐賀県佐賀市）



▲針供養、軟らかい豆腐で使
い古した針をねぎらい供養
(東京都世田谷区)

るさと山口県長門市、また他の地域にも、鯨の胎児の墓が存在します。昔の人は鯨を無駄に捨てる所なく、大切に消費していました。が、母鯨に胎児がいたときは、決して手を付けず葬ったといひます。対等に、時には畏怖の対象として、自然・他の生物・器物に接した日本の価値観は、ただの動物愛護や地球環境と違う次元にあります。

金子みすゞが詠った情は、感謝とともに謝罪・憐憫・因果が交り、他の存在をないがしろにしない日本の「大切」のやり方といえます。この情は、小学3年生の児童からも見いだせました。昔の人の大切に思う思い、授業の感想で締めさせていただきます（下記）。

わたしはさまざまなおはかの
でくじらのお母さんのおなか
の中に赤ちゃんがいたとき
は赤ちゃんだけ食べなして
おはかに入れるのはなんで
かなあと思ったけどわたしは赤ちゃん
もまた生まれてなかつたのでおはか
らになって生まれてねと言ってるよう
でした。

▲3年生児童の感想
▶「大切」の文化
を説明する
(東京都板橋区立
志村第四小学校)



知 り た い ! う つ わ と 食 の ミ ニ 知 識

付喪神・百鬼夜行とアニミズム

「もの」が粗末にされたとき、無駄だ・もったいないなど物質の希少性や資産的価値で惜しむこともあります。が、かわいそうなど人に対するように感じ思うこともあります。このように生物・もの・自然などのさまざまな存在を擬人化し、魂が宿るという考え方がアニミズムです。数々の妖怪話や八百万の神^{やおよろず}という言葉に見られるように、太古よりアニミズムが定着しているのが日本です。

「大妖怪展 土偶から妖怪ウォッチまで」(江戸東京博物館にて8月28日まで、大阪にて9月から開催)で展示される「百鬼夜行絵巻^{つくも}」では、さまざまな道具が魂を持ち、付喪神と呼ばれ、豊かな表情にその性格までが表現されています。



重要文化財 伝土佐光信「百鬼夜行絵巻」(部分) 室町時代(16世紀) 京都・真珠庵蔵
※「大妖怪展」大阪会場 後期(10月12日~11月6日) 展示場面